常盤中学校コミュニティスクールだより

No. 1

令和７年度の第１回学校運営協議会が、６月１０日（火）１０時から常盤中学校の第一会議室で行われました。今年度も常盤小・常盤北小と３校で常盤中学校区コミュニティスクールを推進してまいります。

〈令和７年度　学校運営協議会委員〉

会　長	栗原　勝義	（常盤公民館館長）
副会長	山本　夕紀	（常盤中学校後援会長）
委　員	志水　　正	（北浦和５丁目自治会長、青少年育成常盤地区会長）
	柴﨑　八重	（さいたま浦和地区更生保護女性会顧問）
	佐藤　マミ	（浦和地区中央地区民生委員・児童委員）
	中田　清人	（常盤北小学校校長）
	新舩　孝子	（国際交流協会事務局長）
	小金井忠夫	（AGS プロサービス株式会社代表取締役社長）
	菊地耕太郎	（埼玉りそな産業経済振興財団専務理事）
	作間由美子	（有限会社メディアサーカス代表取締役）
	斎藤　光人	（株式会社ゴールドアンドグリーン代表取締役）
	熊坂　　創	（常盤中学校ＰＴＡ会長）
	玉崎　芳行	（常盤中学校校長）
	藤田　雅彦	（常盤中学校地域連携コーディネーター）

〈学校運営協議会の様子〉

はじめに、学校運営に関する基本的な方針の説明等と承認を行いました。

校長より、資料及び令和７年度「学校グランドデザイン（案）」及び「学校評価システムシート（案）」をもとに教育課程の編成、学校経営計画、組織の編成、予算の執行、施設及び設備の管理に関する説明を行い、質疑応答後に全委員より承認を受けました。

熟議の時間では、各校教頭より、昨年度の運営協議会の内容について報告を行い、各学校グループに分かれて、「『あいさつ』をより活性化するべく、あいさつをする意義を児童生徒に浸透させていくために、学校、家庭、地域ができる具体的な取組について」「児童生徒の『コミュニケーション力』向上に資する、学校、家庭、地域ができる具体的な取組について」を話し合い、グループごとに発表しました。

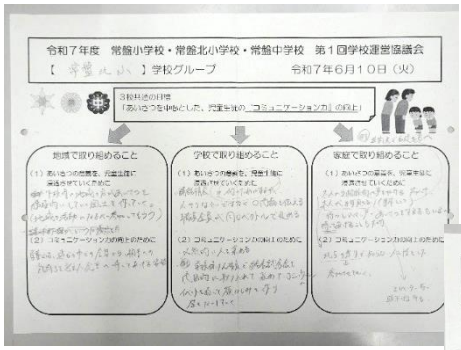
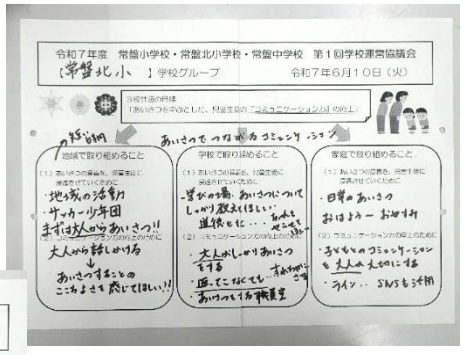
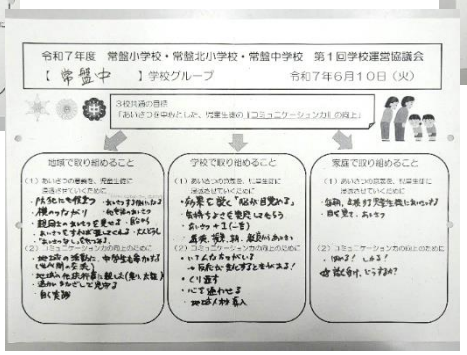
〈各グループの意見〉

常盤小学校グループ

地域・学校・家庭→あいさつを習慣付けるために、まずは大人が手本となり、姿勢を示すことが大切と考える。ある程度あいさつが習慣化した後、意味や意義を繰り返し伝えていく。

学校→授業において、コミュニケーションやあいさつをすることに留意した展開を継続していく。学校内での取組を地域や保護者の皆様に伝えていくことが、みんなで取り組んでいく上で大切である。
常盤北小学校グループ 地域→下校時、地域の方から積極的にあいさつをする。見ず知らずの人からあいさつをされた場合、その場を離れてしまう児童生徒もいるため、学校や家庭があいさつを習慣化する風土を作る必要がある。 学校→講話朝会等の機会を捉え、何のためにあいさつをするのか、意義を明確に伝える。また、給食試食会等を活用して、意図的に人を集めることで、顔なじみになりコミュニケーション力の向上につなげる。 家庭→宅配業者に謝意を伝えたり、エレベーターで思いやりの声掛けをしたりする等、大人が範を示す。また、地域の祭りに参加することで、知らない人と接する機会が増え、コミュニケーション力の向上につながる。
常盤中学校グループ 地域・学校・家庭→極論かもしれないが、「あいさつ無し」を体験してみる。あいさつが無いことの気持ち悪さを実感し、逆説的ではあるがあいさつの大切さを知ることにつながるのではないか。また、あいさつをする側になり、あいさつを返してもらえなかった時の感覚を実感してもらう。本日の熟議を経て、各々がどのように行動するかが大切である。

〈本日のまとめ〉

常盤中学校校長より、本日の会議についてのまとめを行いました。

「本日の会議は、『いじめ防止対策検討委員会』を兼ねている。熟議の中で、いじめ防止の観点からも御示唆をいただいたところである。学校としてはもちろん、さいたま市全体としても、いじめは絶対にいけないことであるとのスタンスは変わらない。もしも被害を訴える生徒がいれば、被害の側に徹底的に寄り添って対応する。地域、各御家庭においても、いじめとは何か、人権意識とは何か、折に触れて話題にしていただけるとありがたい。子どもたちの光あふれる未来に向かって、これからもお力をお貸しいただきたい。」